

フィリッピン船員と日本船員の食事状況の比較

Comparison of Food Conditions Between The Seamen's Filipino and Japanese

豊 瀬 恵美子

要 約

フィリッピン船員と日本船員の食事状況を食品群類と栄養素の食品群類別摂取割合によってスピアマンの順位相関係数により、食事パターンと食事因子を因子分析のバリマックス解により解析した結果を以下のように要約した。

- 1) フィリッピン食で日本食より多い食品群は肉類、菓子類、穀類であった。
- 2) フィリッピン船員の給与食事には3食の他、間食も含まれていた。(日本船員は3食のみ)
- 3) 栄養比率のうち穀類エネルギー比は、フィリッピン食50%、日本食38%で、日本食は食品構成ではバランスがとれているようだが、穀類エネルギー比はフィリッピン食の方が好ましい。
- 4) 栄養素の食品群類別給与状況をスピアマンの順位相関係数でみると、エネルギー、脂質以外の栄養素に有意の相関がみられ、エネルギー、脂質のとり方は日本とかなり異なっている。
- 5) フィリッピン食と日本食の食事パターンは大きく異なっていて、そのためか食事因子にも違いがあった。

フィリッピン食は第1・第2因子で主菜・副菜が説明できた。

日本食の第2因子は日本型食パターンであったが第1因子は主菜・副菜としてはとりにくい食品であった。

(海上医学研究, 第24集, 350~357, 1987)